

平成30年度 第2回多文化都市八戸推進懇談会 会議録

日時 平成31年3月18日(月)  
14時00分～15時00分  
会場 八戸市庁別館7階会議室A

<次 第>

- 1 開 会
- 2 会 議

(1) 平成31年度多文化都市八戸推進事業補助金の審査について(資料1)

(2) その他

- ①八戸市公会堂・公民館耐震改修工事の工期の変更について(参考資料1)
- ②八戸市新美術館管理運営基本計画について(参考資料2)

- 3 閉 会

---

●事務局

本日は、お忙しい中、お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。定刻となりましたので、ただ今から、平成30年度 第2回 多文化都市八戸推進懇談会を開催いたします。

本日は、8名の委員が出席しておりますので、多文化都市八戸推進懇談会規則第5条第2項の規定により、会議が成立することをご報告申し上げます。ここからの議事進行は、内海会長にお願いいたします。

●会長

それでは、次第に従いまして進めさせていただきます。議題1「平成31年度多文化都市八戸推進事業補助金の審査」について、事務局より説明願います。

●事務局

それではご説明いたします。審査に先立ちまして、昨年5月の懇談会でご報告いたしましたとおり、31年度補助金につきましては4月初旬からの事業実施が可能となるよう、2月1日から28日までと募集期間を前倒しし、2月13日にははっちにおきまして制度説明会及び30年度補助事業者による報告会を開催いたしました。こちらは様々な団体間の交流の機会として、活動資金の集め方など、大変参考になったとの御意見をいただいております。結果として、昨年度は6件の申請がございましたが、31年度は申請が2件のみということで、今後の周知や制度のあり方等も含めまして検討してまいりたいと考えております。

それでは、補助金の審査についてご説明いたします。資料1をご覧ください。関係書類一覧、審査基準、申請一覧、及び採点票を配布してございます。また、今回申請のありました2件につきましては、いずれも過去本補助金を活用した実績がございますので、本日配布資料として、直近の補助金実績報告書をお配りしておりますので、こちらも採点の御参考としてくださいますようお願いいたします。

では順に概要をご説明いたします。主に第3号様式の事業計画書の内容についてご説明申し上げますので、合わせてご覧ください。

1件目の申請ですが、事業名は「言葉シリーズ PartⅢ 言葉は呪文のように 完全な音は言葉を創り、対位法とは究極の言葉なり」、申請者は諏訪内昌子氏、個人での申請となります。なお、諏訪内氏は同様のイベントを平成25年度にモーツァルト、27年度にはベートーベンの曲を中心に、ピアノ演奏による音楽と、言語との類似性をテーマに実施しており、補助金の申請は今回で3回目となります。

今回はバッハ、ショパンの曲によるピアノコンサートと、その間に大学教授による音の構造を分析した映像を投影、解説を加えながら音の可視化を図り、テーマである対位法による分析を通して2つのメロディーと、人間の声との類似性を検証するものです。

収支予算書に移りまして、補助対象経費は出演者謝礼、会場使用料等が主なもので計79万8120円、入場料収入40万円を差し引いた補助申請額は上限の10万円でございます。なお、チケットは市内各種プレイガイドやご自身の経営するピアノ教室で販売を行うものです。

次に、2件目の申請ですが、事業名は、「アーティスト・イン・レジデンス2019港をつなぐ」、申請者は、エアエイチ、東方悠平代表です。29年・30年度もこの補助金を活用しており、八戸市の姉妹港であるフィリピン・マニラからアーティストを招き、ワークショップやリサーチ・制作を行うもので、実施期間は5月～3月、アーティストの滞在期間は9月～10月を予定しております。これまでとの相違点につきましては、過去2年の事業実施により、市内のフィリピン人コミュニティとの接点が生まれたことから、31年度は当該コミュニティやNPO法人と連携し、交流イベント等を実施する予定でございます。補助対象経費はアーティスト謝礼・交通費が主なもので30万5千円、補助申請額は10万円でございます。なお、審査基準にも記載されておりますとおり、委員の皆様の評定の合計が7割以上の企画について補助金を交付することとなっており、5件の募集に対し2件のみの申請でございますが、合計点が7割を下回った事業につきましては不採択となりますことを申し添えます。以上で説明を終わります。

## ●会長

ただ今の説明や審査基準、審査方法に対し、何かご意見、ご質問はありますか。

それでは、25日までに審査をお願いいたします。

2件とも過年度に事業を実施しているわけですが、新たな事業者と申しますか、そろそろこの制度も頭打ちなのではないでしょうか。昨年度は6件の申請がありましたが、新しい取組が出てくれば良いと思います。

次に、議題2「その他」の ①八戸市公会堂・公民館耐震改修工事の工期の変更について、事務局より説明願います。

## ●事務局

参考資料1をご覧ください。八戸市公会堂・公民館の耐震改修につきましては、平成29年9月に工事による休館に入る旨を公表いたしまして、その際は基本設計を行っていた時期であり、その後の状況の変化がございまして、実施設計等での検討その他の状況により、工事期間、両館の休館期間を延長せざるを得ないこととなったところであります。

工期の変更理由ですが、実施設計において構造計算を行った結果、新たに両施設の天井部分のトラ

ス梁等の補強が必要となったことや、五輪特需等、全国的に大規模な工事が今後も予定されており、マスコミでも報道されておりますが、鉄骨を接合するためのハイテンションボルトの需給逼迫により、公会堂・公民館合わせて7ヶ月の工期延長が必要となり、公会堂で18ヶ月、公民館で12ヶ月の工期を見込まざるを得ないという状況でございます。

休館予定でございますが、公会堂につきましては平成31年7月から平成32年7月の13ヶ月ということでしたが、来年12月まで、5ヶ月間の延長ということとなります。次に公民館でございますが、当初公会堂の工事が終了した後に公民館の工事着工ということで、来年いっぱい公民館の使用が可能ということでございます。その後、平成33年1月から約1年間休館せざるを得ないということでございます。

今後の予定ですが、新年度に入札の事務等を進めまして、金額的に大きい工事となることから、6月市議会で議案の承認をいただいた後に工事に入っていくということで考えてございます。

休館期間が伸びたということで、利用者の方には御不便と御迷惑をお掛けすることとなりますが、やむを得ない状況ということで御理解を賜りたいと考えてございます。なお、本件につきましては本日議会にも御報告したところでございます。以上でございます。

●会長

ただ今の説明に対し、何かご意見、ご質問はありますでしょうか。

●委員

来年の県民文化祭をどうするか、マスコミにも出るでしょうか、早急に検討したいと思います。

●会長

工事費用はどのくらいかかるのでしょうか。

●事務局

予算上では3年間で28億円となっております。

なお、補足でございますが、この工事期間中に座席の更新や段差の解消、トイレの全館洋式温水暖房便座化や照明のLED化により省力化を図り、また、エレベーター・エスカレーターを設置により、現状では2階部分に車椅子の方が上がることができないということも解消できると考えてございます。

●会長

ありがとうございました。丁寧に市民へ説明が必要だと思います。

他に何かございますか。

●委員

公会堂休館中、公民館のイベントで公会堂の楽屋を使うことはできるのでしょうか。

●事務局

工事関係者の出入りや、立入禁止区域や避難経路の設定などを踏まえ、今後総合的に判断します。

●委員

椅子の数は変わるのでしょうか。

●事務局

公民館ホールは変更ございません。公会堂ホールは座席幅を2cm拡大いたしますので、1,624席から1,532席に減となります。前後幅に変更はありませんが、座面の工夫により脚を座面下に格納できますので、これまでと比較し前方の通行は容易になると考えております。

●委員

長く座っても楽になるよう、良い機会だと思いますのでよろしくお願いします。

●会長

建物の外観は変わらないのでしょうか。

●事務局

外観は変わりませんが、正面入口及び地下入口に自動ドアを設置します。

●会長

使い勝手が良くなるということですね。利用度が高い施設ですので、代替施設の検討は大変だと思います。最終の大きなイベントというのは何になるのでしょうか。

●事務局

市制施行90周年記念事業として、5月9日にNHK「新・BS日本のうた」の公開収録を行います。

●会長

ありがとうございました。

では次に、議題2「その他」の②八戸市新美術館管理運営基本計画について、事務局より説明願います。

●事務局

それでは新美術館管理運営基本計画について、本日は概要版をもとにご説明いたします。管理運営基本計画は、これからオープンを目指す上での基本的な考え方を示すことを目的に、31年1月に策定したものです。新美術館のビジョンですけれども、種を蒔き人を育む、100年後の八戸を創造する美術館、出会いと学びのアートファームということを掲げております。このビジョンの下に、美術館の機能と、アートの学びを高める機能と、アートのまちづくりの3つの役割を融合させた美術館を運営していくことを目指しております。

アートの学びを提供する美術館ということで、アートを通じた学びに重点を置き、事業・活動を実施していきたいと思っております。アーティストや美術館スタッフと市民が対話し、一緒に何かを作り、考え、学び、人々が会うことで生まれる体験・経験を提供すると同時に、その体験や経験が育

むものを尊重・重視していくことを目指しております。それが、地域において美術館の活動を通して、将来的に地域を創る人材が育まれていくというイメージです。

新美術館の事業構成ですが、基本事業というものは新美術館の活動の根底を支える事業、美術館の学芸機能やアートのまちづくり機能、総務・施設管理をはじめとした基本的なものとなっております。これらを踏まえまして、企画内容に応じて様々な組織が横断的にチームを構成して実施する事業をパイロット事業と位置づけております。このパイロット事業をいう形態を取って、様々な事業を展開していくこととしております。チームを作るに当たって、様々な方が共に活動していくわけですが、その方々を共創パートナーと位置づけております。美術館はあらゆる活動の拠点ではありますが、多くの方々を巻き込みながら、美術館の事業が成り立っていくものと考えております。

様々な学芸員と専門家と、美術にあまり馴染みのない市民とをつなぐ役割を担う方を「アートファーマー」と呼び、この方々とチームを組んで、ワークショップや中心市街地での活動・展示等を行っていきたくと考えております。また、学びと謳っておりますので、大学等の教育機関との連携も推進していくこととしております。これらを通して、美術館の活動が、中だけに留まらず外に広まっていて、八戸の文化をより魅力的なものにしていきたくと考えております。以上でございます。

●会長

ありがとうございました。ただ今の説明に対し、何かご意見、ご質問はありますでしょうか。スタッフは何名くらいを想定しているのでしょうか。

●事務局

現在は学芸員が3名、総務系が2名おりますけれども、将来的に学芸員はあと8名増やし、さらにまちづくり文化推進室のスタッフとも活動を共にしていくということで、総勢20名近くになるものと考えております。

●会長

その方々は常駐でしょうか。

●事務局

はい。

●会長

そうすると、かなり人を増やしていくということですね。

●事務局

現在はまちづくり文化推進室に文化推進グループがあり、南郷アートプロジェクトや八戸工場大学などの取組を行っておりますけれども、こちらを美術館に統合するという考え方もあるのではないかとということで検討を進めておりますので、純増ということではなく、館内・館外を合わせた形で事業を展開していくことを考えております。

●会長

心配なのは、行政が様々な公的施設を建設すると、予算というのは決まっていますから、そのため指定管理に持っていくなどしているわけです。かといって職員をどんどん増やすというのは現在の流れに逆行するし、じゃあシェアリングで皆さんの給料を減らすわけにもいかないと思いますし、まちづくりを真面目に考えていかないと。ACACもどんどん人が変わっていきます。館長不在のままやっているわけですが。素晴らしい計画なわけで、どれかを欠けさせるわけにはいかないと思います。今後計画的に出来る方法を考えたほうがよいのではと思います。

●委員

予算的にはどの位の規模なのでしょうか。

●事務局

ハード面の整備に関しては32億円を予定しております。

●会長

公的施設については耐用年数も含めチェックしなければなりません。美術館はあまりお金を生むということはない施設ですけれども、十和田の現代美術館のようにインバウンドで外国人はかなり増えているけれども、周辺にお金が落ちていないという現実があります。いずれにしてもタックスペイヤーが納得できるよう、丁寧な説明が必要だと思います。

そのほか、何かご意見、ご質問はありますでしょうか。

●委員

オープンの時期はいつ頃でしょうか。また、市民の方の中でも関心が高い方とそうでない方とのグラデーションがあり、それをどう濃くしていくかということだと思っておりますが、オープンまでの間のプレ事業などのプランはどのようにお考えでしょうか。

●事務局

オープンは2021年夏頃を目指しておりますが、それまでの間にもいくつか取り組んでいる事業がありまして、アートの学びをもたらすものということで、学校と連携してオープン後も続けられるプログラム作りや、いろいろなワークショップをはっちやマチニワ、コベヤなどで事業に繋げるための下準備として活動を行っております。ご指摘のとおり、関心のある方はそれをキャッチできるのですが、関心のない方がまだまだたくさんいるというのも事実です。ですので、すそ野を広げるという意味で構想を立てており、オープンまでの間にどのように波及させていくかというのは、まだまだ事例を積み重ねながら取り組み、オープン時までには市民の機運を高めてまいりたいと考えております。

●会長

アートファーマーを育てるといのはとても大変なことだと思います。道路や橋を作って欲しいというニーズとは違いますので、ニーズと思わせるような仕掛けをこちら側がどれだけやっていけるか。長期的な展望で、市民だけでやるのではなく、旅行会社と連携することで宣伝効果を得るとか、様々なマネジメントを考えていかなければなりません。短期的な各種事業と、長期的な展望、人員が不足

した場合はどうするか、クラウドファンディングなど、人口はどんどん減っていくし、突出したものができなければ大変だろうと思います。いかに市民に伝えるか、ということだと思います。

そのほか、何かございますか。

また、全体を通して何か質問や意見などございますでしょうか。

●委員

はっちの館長が今日いらっしゃっていますのでお伺いします。先日書道展を実施しましたが、ガラス貼りなので作品がかなり照らされてしまいます。そこでカーテンの設置をする考えはございませんか。

●事務局

現時点で対応は考えておりませんが、御意見として頂戴いたします。

●会長

今回の会議をもちまして、2年間続きましたこのメンバーによる懇談会は任期満了となります。この間の活動や想いなど、各委員の皆様から一言ずつ頂戴したいと思います。

●委員

私は公民館からの立場になりますけれども、おかげさまで南部弁の日や昨日終了した演劇祭など、はっちさんには本当に一生懸命取り組んでいただいて、感謝しかありません。以上です。

●委員

最初から最後まで、私には少しレベルが高かったと思っていますが、市役所の方や公共施設の方のお仕事の内容を垣間見て、私には興味のないこともありましたが、参加してプラスになったこともありました。お世話になりました。

●会長

公募ということで、日常の場で何かお話されることなどありましたでしょうか。

●委員

一般市民にはなかなかわかりにくいところもありましたが、催しについては補助金が出る制度があるなど、お知らせしたことはありました。

●会長

公募というのはまさにそういう狙いがあるわけです。これからも委員としてではなく、市のほうに御意見をいただければと思います。ありがとうございます。

●委員

美術館が新しく建設され、はっちやブックセンターがある中で、もう少し横の連携と申しますか、例えば美術館で写真家を呼んでいるときに、はっちには別の若い写真家が来ていることがあります。

そのあたりを一緒に何かをやるなど、美術館が出来たときにはどちらかが主役になって引っ張っていただかないと、なかなか思うように連携が取れないのかなと思いますし、これからの美術館の構想にも大きく関わることはないかと思います。

#### ●委員

様々な市の取組みについて勉強させて頂く良い機会になったと思います。美術館が新しく出来るということで、この盛りだくさんの事業をどのように進めていかれるのか。私としても実験的なプログラムから、毎年定番でやっているものから、様々関わっているのですが、八戸は本当に多様なアートの活動があって、しかし広まっている層がいつまでも同じというのは自分の中でも問題意識があります。それをどうやって解決していけばよいか、例えばこちらに来てということではなく、連れて行ってあげる等のツアーを企画するとか、商工会議所の皆さんがアートに興味があるのだろうかとか、セクションが違っていると、すぐ傍で行われていることに全く関わりがないということもありますので、こちら側から歩み寄るといような機会を設けるといことも、これからの文化政策においては重要なのではないかと思います。

#### ●委員

委員の皆様、事務局の皆様、本当にありがとうございました。元々、懇談会に参加させて頂いたときに、多文化都市という名称がどこを指すのかという定義の議論が懇談会の中でもありましたが、依然としてその名称の魅力というのは色褪せていないと思います。私は教育機関から参加させて頂いておきますので、これからの時代を担う若い人たちに、多様性などを伝えていくという責務として、宿題としていただいたのかなと思っております。新美術館の構想の中で、大学や学校との連携事業もありました。おそらく、学校としては、まちなかの拠点となるような、使い勝手の良い、アートを含めた様々な学びの拠点となるような場所になっていただければ、積極的に学生たちが自ら活動を始めるといような拠点になるのではという期待をしております。

#### ●委員

私の周りでは、マチニワは冬寒いなど相当評判が悪いですので、あの中にランニングマシンを10台くらい置いたらいかがなものでしょうか。

#### ●会長

多文化というのは多様性、寛容性だと思います。八戸の人はいろいろなものを全部受け入れるという、まさに多文化だとい風んに考えています。また、海を題材にしたものが八戸にはまだ足りないと思っています。もう少し、海というものを全面に打ち出していくことも重要ではないかと思っています。いろいろ苦言も呈しましたがけれども、いかに住民の理解を得ながら運営していくということを考えないと大変だなというのが個人的な意見です。

補助金については、できれば来年度新しい取組み、アイデアや企画を持った方が応募できるような事業であって欲しいと願っております。

本日の案件については以上となります。事務局に一旦お返しします。

## ●事務局

一度任期が満了となるということで、委員の皆様からは時折厳しい意見も頂戴いたしましたけれども、本当にありがとうございました。様々な観点がございしますが、はっちが出来てから8周年、また同時期から南郷アートプロジェクトなどにも取り組んでまいりました。従来型の文化行政とは一線を画した形、八戸市ではアートのまちづくりに取り組んできたと考えております。我々スタッフも走りながら、勉強しながらということやってまいりましたので、全てのプロジェクトが初めからうまくいったかという、必ずしもそうではない部分もあったかとは思いますが、様々なアート事業を通じ、様々な分野や地域の方に参加いただいたという部分については、まちづくりに資する部分があったのではないかと考えております。8年経過した中で、我々としても少し振り返りながら、改めて考える機会ではないかと考えておまして、先程、各施設のつながりが見えないというような御意見もございましたので、そういった部分の連携を図っていくということも、新美術館にアートセンター機能を入れようというプランも考えておりますので、各施設、はっちやブックセンターでやってきたものも総合的に連携付けられるような形で取り組んでいかなければならないと、問題意識を持って仕事をしていくという認識でおります。また、市民レベルでも様々な文化活動がございまして、盛り上がりを見せているというところでございます。そういった意味で、他の文化芸術活動と連携していける部分もあろうかと思っておりますので、新美術館、あるいは市の文化施策として何が出来るかということを検討しながら、今後も多文化都市八戸推進懇談会は継続していきますので、そういったことを話し合える場として、我々としても勉強させていただきたいと考えておりますので、今後ともよろしくお願いたします。

## ●事務局

文化の薫り高いまち八戸を目指していく中で、ここ数年はハード整備が続いておりますけれども、やはり基本はソフト、市民参加型の施設になっていかないと、100年先の美術館と言っているように、今後重要になってくると考えております。また、文化だけではなく屋内スケート場も出来ますし、スポーツで市民が元気になるという部分もございしますので、文化やスポーツ、いろいろな面が融合しながら相乗効果を発揮できるような施策を委員の皆様から御意見を伺いながら進めてまいりたいと考えておりますので、今後ともよろしくお願いたします。

## ●事務局

以上をもちまして、平成29・30年度の懇談会日程は全て終了となります。委員の皆様方におかれましてはご多忙のところ、誠にありがとうございました。